小学校第４学年　総合的な学習の時間　学習指導案

柳生街道とわたしたちの町

奈良教育大学　学部４回生　157611 西田有壱

１．単元名　柳生街道とわたしたちの町

２．単元の目標

・清水通り商店街と柳生街道の関連から、山間部の人と市内の人々とのつながりや清水通りが発展した理由について理解する。（知識・技能）

・清水通りの歴史や交通の発達などの社会の流れから、時代に合った生活や今の清水通りに必要なことについて考える。（思考・判断・表現）

・町の人に積極的に聞くなど、意欲的に調査したり、柳生街道や清水通りの発展の過程について考えたりする。（主体的に取り組む態度）

３．単元について

〇教材観

本単元では、昔から多くの人が歩いてきた柳生街道と、柳生街道の終着点である清水通りを取り上げる。現在、奈良市福智院町にある福智院の北側を東西に走る道が清水通りである。清水通りは、現在の県道 80 号線から公納堂町まで続く一本道である。

この教材を取り上げた理由として次のことをあげる。まず、清水通りは昭和初期、戦後直後まで奈良市の田原や、水間など東部山間地域の人が農作物などを売りに来て、日用品を買って帰る、東部山間地域の人々のいわゆる台所として非常に栄えていた。このことから、昔は東部山間地域の人と奈良町の人が密接につながっていたことや、今の町がつくられるきっかけとなったことに気付くことができるからである。さらに、東部山間地域の人々は、朝３時に家を出て馬や牛に俵や炭をのせて柳生街道を歩き、清水通り商店街で必需品を買い求めていた。これらのことを聞き取り調査や現在に残る写真から学び、当時の人々の生活や清水通りの様子について推測したり、考えたりすることができるからである。最後に、現在の清水通りは、今西清兵衛商店や、八木酒造、御菓子司木村屋、八木善商店、名和藤商店などが残る一方、町屋の景観を残しつつ東側に行くほど徐々に住宅地に変わってきている。清水通りの移り変わりを学ぶことで、交通が発達し、東部山間地域の人々の生活必需品であった油屋や、乾物などの商店は衰退していったことが分かる。このように

社会の流れや生活の変化から町の移り変わりを知ることができる教材である。

加えて、柳生街道は現在も実際に歩いて体感することができる。清水通りから 1 時間少々で山間部の集落（誓多林町）に出ることができるため、昔の人が柳生街道を歩いてきたという話を聞くだけでなく、実感することができる。また、柳生街道は文化庁の「歴史の道百選」にも選定されており、百選に選ばれた理由なども歩きながら考えせることも可能である。柳生街道は石畳や、カエデの木、石仏など当時の面影を残しているのが特徴である。また、3 年生の社会科では、奈良市の様子について学習したり、昔の道具や昔の暮らしについて学習したりしている。昔の人が柳生街道を歩く際に荷物を運ぶために担いでいたおうこ（天秤棒）などは、その道具に当てはめることができる。4 年生では、奈良県の様子について詳しく学習している。よってこれまでの学習とも結びつけながら、多角的な視点で身近な町をみることができる教材である。このように奈良市や奈良県の様子について学習し、改めて身近な町（清水通り）を見ることで構造的に地域を把握することができる教材である。

〇児童観

(省略)

〇指導観

この単元を通して、子どもたちは清水通りが山間地域の人々とのつながりによって発展してきたことを学び、交通の発達によって寂れた現在の清水通りをみつめ、今の清水通りに必要なことについて考えられるようにする。

まず、第一次では、清水通りの現在と昭和 28 年代ごろの写真を比較し、清水通りがかつて賑わっていたことに気付けるようにする。また、現在の清水通りと昭和初期の清水通りの地図から商店の立ち並びを比較し、そのうえで、なぜ清水通りが賑わっていたのかを考えていく。児童が身近な地域の移り変わりに疑問や興味をもてるように、積極的に地図や写真などの資料を活用し、現在と過去を比較できるようにする。

次に、第一次での気付きをもとに、第二次では「なぜ昔の清水通りは賑わっていたのか」について調べ学習を行う。方法は、主に昭和初期から現在まで残っている商店の方にインタビューをする。インタビューをすることで、児童には自分が尋ねたいことや、質問することを明確に伝えられる力を養う。清水通りに残る老舗の酒屋や御菓子屋を活用して、清水通りの移り変わりについて聞き取り、清水通りが東部山間地域の人々のいわゆる台所として発展していたことを理解する。

また、第三次では特別活動や校外学習の時間を活用して、柳生街道を実際に歩く。第二次で、東部山間地域の人々が荷物を担いで清水通りまでやってきたことなどを思い出し、当時の人々が歩いていた道の傾斜や、石畳の感触、周りの雰囲気などを体感する。この体験活動を通して、現在は自動車などの交通が発達していることを実感できるようにする。これらの活動から、交通の発達と、清水通りの移り変わりが関連していることに気付けるようにする。

本単元のまとめである第四次では、改めて現在の清水通りを見つめ、深めていく。第三次までに、清水通りが東部山間地域の人々の往来によって発展してきたことや、交通の発達によって市場が変わったことなどを学習している。そのうえで、清水通りが衰退し、ほとんどの店が閉業したにも関わらず、なぜ当時から現在まで続く店があるのかというところに疑問をもてるようにする。再び、清水通りの老舗の方に実際に話を聞き、その理由や工夫について知る。この活動から、清水通りの町や老舗を続けていくためには何が大切なのかを考え、まとめる。最後に、これまでの学習を総合して、時代に合った生活や現在の清水通りに必要なことについて考える。

これらの学習から、身近な地域の特徴を歴史的に見たり、東部山間地域の人々の暮らしの特徴から考えたりして構造的に捉える力を育む。また、町の中で人との関わりを積極的に増やしていこうとする姿勢を育む。

４．単元の評価規準

ア　知識・技能	イ　思考・判断・表現	ウ　主体的に取り組む態度
①昔と今の地図や写真を比較し、その違いに気付いている。 ②清水通りが東部山間地域の人々の市場となったことで発展していたことを理解している。	①インタビューや、調べたことをもとに、清水通りの移り変わりや、柳生街道を歩いた人々の気持ちや思いについて考えている。 ②商店の方のお話から、店を続けるために大切なことを考えたり、まとめたりしている。	①清水通りの商店の方へのインタビュー内容を考え、積極的に尋ねたり、調査したりすることができる。 ②インタビュー内容を思い出しながら、荷物を担いで石畳を歩いたり、傾斜を感じたりして、柳生街道を体感している。

５．ESD との関連

①学習を通して養いたい ESD の視点

【相互性】

他地域の人々との様々なつながりによって町がつくられていくこと。

人とのつながりによって町がつくられてきたことを学び、現代の形で人とつながっていくことの必要性を理解する。

【連携性】

持続可能な町づくりのためには、他地域とのつながりも、町の人同士の努力も大切であること。

②ESD で育てたい資質・能力

【コミュニケーション力】

山間部の方や、清水通りの店の方に積極的に聞き取り調査をすることによりコミュニケーション力を養っていく。

【システムズ・シンキング】

現在の清水通りが、過去の歴史的な背景や、他地域とのつながりから考えることで、一つの地域を構造的に見る力を養う。

③ESD で育てたい価値観

【経済よりも幸福感を重視する】

現在の清水通りについて考え、今は商店の発達よりも現代の生活に合った暮らしやすい町であることを優先するという考え方もある。

④貢献できる SDGs

【11】

現在の町の人との触れ合いから、持続可能な町づくりについて考える。

６．単元の指導計画　全 13 時間程度

主な学習活動	学習への支援	◇評価・備考
◎清水通りについて知る。 １．身近な町がどんな町であったかを思い出す。 ・奈良町がある。 ・色々なお店がある。 ・スーパーがない。		
２．身近な町の昔（昭和初期）が今とは違っていたことに気付く。 ・親子が野菜を買いに来ている。 ・今は野菜を売ってないけど。 ・奥の方は旗が立っている。・・・	○資料１．２．３を用いて、店や看板、旗などに注目するように促す。	アー①
３.清水通りの今と昔について比べる。		
今の清水通りはどんな様子だろう？		
▽現在の清水通りにある店や工場などを確認し、地図に書き込んでいく。 ・カナカナや春は有名 ・酒造もある。 ・福智院がある。 ・米屋。	○児童の記憶にない場合は、清水通りを実際に歩いて見つけられるようにする。	
▽清水通りの様子について、現在と昔の清水通りの地図から比較し、昔の商店の業種、種類や、商店の数が減少したことに気付く。 ・今より店の数が多い。 ・荒物屋ってなんだろう。	○資料５の清水通り新旧比較地図を用いる。 ○何の店か分かるように留意する。 例　荒物屋…日用品雑貨	アー①

・いろいろな種類のお店がある。		
なぜ昔の清水通りは、賑わっていたのだろう。		
◎清水通りについて詳しく調べる。 １．清水通りが賑わっていた理由を予想する。 ・昔はもっと人が多かった。 ・周りに人がいっぱい住んでいた。 ・スーパーがなかったから。	○資料５の地図などを用いて清水通りの賑わいが感じられるようにする。	
２．次時に向けて事前に質問することを決める。 ・昔の清水通りはどんな様子でしたか。 ・なぜ昔はこんなに店が多く、賑わっていたのですか。		ウ－①
３．実際に、清水通りにある商店の人などに聞き取り調査をする。	・昔の清水通りを知っている人に尋ねられるようにしておく。	
４．清水通りは、東の山間部の人々の往来によって商売が盛んだったことを理解する。	○清水通りに住む方に教わったことをまとめて考え合うようにする。	ア－② イ－①
◎実際に柳生街道を歩く。		ウ－②
今の柳生街道は、どんな様子かな？		
１．柳生街道を体感する。 ・石畳の道は歩きにくいな。 ・山間部の人は帰るときはきつかっただろうな。	○昔の人が日常的に歩いていた道であることを意識するように促す。 ○昔の人がおうこを利用して荷	イ－①

・僕たちでも歩いて行けるのかな。 ・坂が急だな。 ・石仏がたくさんあるね。	物を担いで歩いていたことにも気付かせる。	
2．交通が発達し、市場が清水通りではなくなったことで、清水通りが衰退していったことを理解する。 ・山間部の人たちは、自動車やバスで買い物に行けるようになったのか。 ・車が通る道に人が集まるようになったんだ。	○資料４のおうこを担いで柳生街道を歩く人の写真や、実際に歩いた体験から、交通の変遷について考える。	アー②
◎現在の清水通りについて深める。 なぜ、昔から残っている店は、つづけられたのだろう。		
1．清水通りが寂れたにも関わらず、残っている店もあることに疑問をもつ。 ・こんなにも店が減ったのに、残っている店もあるのか。・・・	○これまでの学習を一度振り返り、今も残る商店があることに着目できるようにする。 例・今西清兵衛商店 ・八木酒造 ・木村御菓子屋 ・名和藤商店 ・八木善商店…etc	
2．なぜ店を続けることができたのかを予想する。 ・この店だけは買いに来る人が減らなかったのかな。 ・人が必要としているものを売る。	○ほとんどの店が無くなっていることを思い出すように促す。	
3．実際に残っている店に、店が続い	○店が続いてきた理由など、尋	

てきた理由やその工夫について尋ねに行く。 ・町が移り変わっても清水通りではお酒が有名であることは変わらなかった。	ねることをはっきりするように準備する。	
４．３の調査をまとめて、町や老舗を守っていくためには何が大切なのかを考える。 ・時代の流れや社会の変化に合わせて、店も変化してきたから続けられたのか。	○様々な店の人に尋ねたことを活かして、町に対して色々な考えをもつ人がいることに気付けるようにする。	イ－②
５．これまでの学習を踏まえて、現在の私たちの町にふさわしい町や清水通りについて考える。 ・今は車や電車の時代だから、清水通りやわたしたちの町は安心して人が暮らせる町を目指せばよいと思う。	○単純に「古いものが良い」や「新しいものが良い」とならないように留意する。	イ－②

６．資料について

本単元で活用する資料について説明する。本単元では、柳生街道を実際に日常的に歩いていたことが分かるような写真や、清水通りの移り変わりを比較できるような資料を用いる。

資料１は、昭和 20 年代の清水通りを東向きに写している写真である。この写真からは、福智院の前で、野菜を売っていたことや、福智院のさらに東側で幟が立っていること、自転車に多くの荷物を載せていたこと、この場所が下清水町であったことなどが読み取れる。

資料 2 は昭和 30 年ごろの写真である。資料１とは、反対側から撮っており、西向きに映っていることが分かる。この写真から、資料 1 で立っていた幟が何らかの商店であることが分かる。また、手前の店では、「炭豆の針」と看板があり、薪が積み上げられている。炭

や薪などが販売されていたことが推測できる。

資料 3 は 2018 年 12 月現在の清水通りの様子である。場所や角度を資料 2 の写真に合わせて撮影したものである。同じ場所から撮影した際、資料 2 では福智院の屋根瓦が見えていたが、資料 3 では手前に 2 階建ての家が建ち、福智院はほとんど隠れている。また、資料 2 では薪が積まれていた商店も今ではゲストハウスになっていることが分かる。

資料 4 は、おうこ（天秤棒）に籠をかけ、肩にのせて柳生街道の石畳を歩く女性が写っている。何を運んでいるかなどははっきり分からないが、おうこを用いて荷物を運んでいる姿が分かる。

資料 5 は昭和初期の清水通りと、2018 年 12 月現在の清水通りを、模造紙に地図にして描いたものである。昭和初期の清水通りは宇多（2002）を参考にした。いずれの地図も、毘沙門町から、公納堂町、福智院町、紀寺町、高畑町にかけて通る清水通りとその沿道に立つ商店などを描いている。実線は道路を示しており、点線は土地や建物の区画を示している。店名などの記載がない土地は、住宅、空き地、私有地の駐車場などである。また、昭和初期から現在まで残っている商店などは、赤字で記載した。これらの地図を比較すると、昭和初期に比べて、商店が減ったことが一目でわかる。特に西側のフルカワの周辺や、福智院の東側などの変化は、一目瞭然である。この地図からは、町の移り変わりや、昭和初期の商店の様子や現在も残る店など、多くのことを読み取ることができる。

参考文献

安彦勘吾　岩坂七雄　山上豊（2008）奈良市今昔写真集　樹林舎　98 頁

岩波写真文庫（1953）奈良－東部－　1953　46・59 頁

宇多滋樹（2002）地域雑誌「ぶらり奈良町」2002 年秋号　宇多出版企画

木村博一（1968）奈良のあゆみ

永田成文・林隆之・吉崎誠・斎藤隼人（2007）　地域の歴史に対する関心を高める小学校中学年社会科における地域学習－身近な地域の文化財に着目して－　『三重大学教育学部附属教育実践総合センター紀要』第 27 号　77－82 頁

奈良市（1960）奈良市史　地理編

奈良市（1986）奈良市史　通史三

奈良市教育委員会（2011）わたしたちの奈良市

奈良市写真美術館　（2005）古都の暮らし・人

奈良市奈良ブランド推進課（2017）柳生散策ガイドブック

奈良市立田原公民館　（1987）田原のくらし　第一集

奈良市立田原公民館　（1988）田原の暮らし　第二集

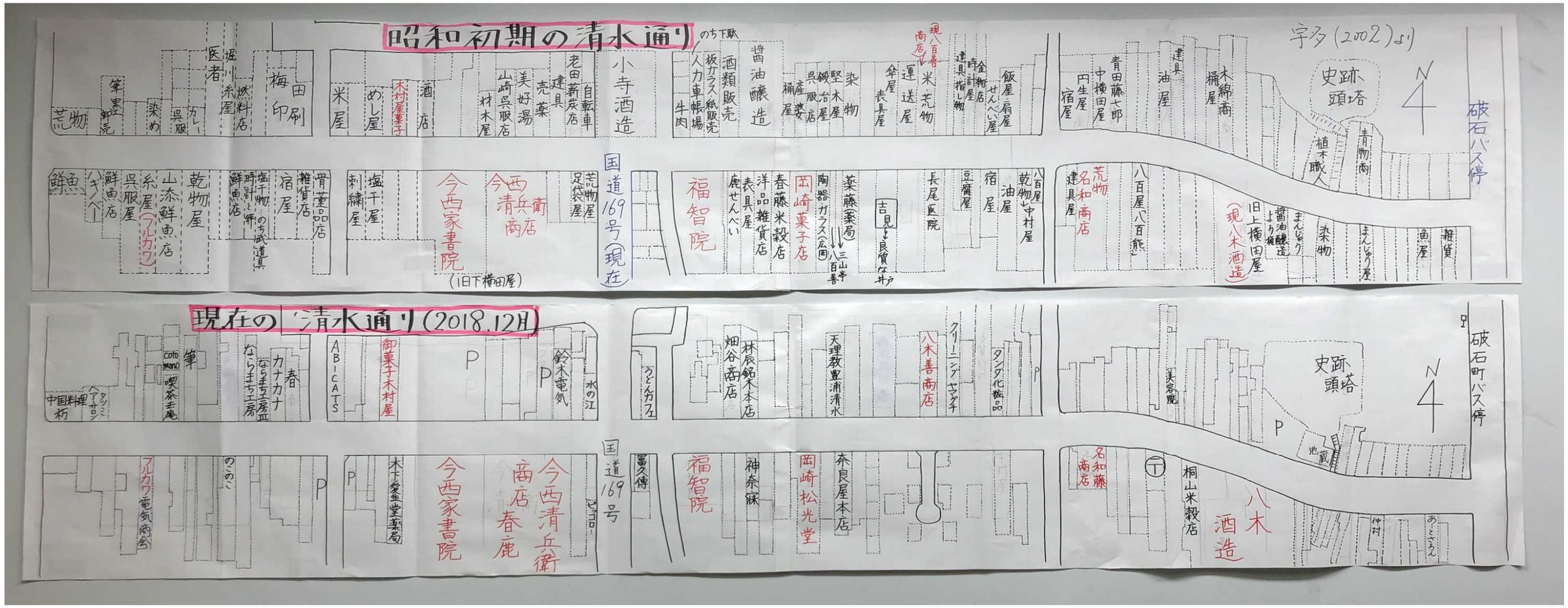
文部科学省（2018）小学校学習指導要領（平成 29 年度告示）解説　社会編

資料１　清水通りの様子　東向き（1953）（岩波写真文庫　1953 より）

資料２　清水通りの様子　西向き　（昭和 30 年頃）（奈良市今昔写真集より）

資料３　清水通りの様子　西向き　2018 年 12 月 25 日　筆者撮影

資料４　おうこを担いで滝坂の道を歩く様子（1950 年代）（岩波写真文庫　1953 より）



資料 5　清水通りの地図　昭和初期（上）（宇多 2002 をもとに）

2018 年　12 月現在（下）

※実線は道路を表し、点線は土地の区画を示している。なお、記載のない建物は、住宅、空き家、空き地である。

７．清水通りの商店の方のお話

店名 性別 年齢	調査結果
名和藤商店 男性 70 代	昔は徒歩で歩いてくる人がいたが、現在は人通りがほとんどない。歩いてくる人がいなくなってから、現在に至るまで、半分以上外回りを行っている。外へ出て売りに行っている。見ての通り、店内に入ってくる人はあまりいない。清水通りの人通りは減ったが、それは時代の流れであり、仕方がない。
八木善商店 女性 89 歳	昔は奈良市役所が今のならまちセンターの場所にあり、田原から下ってくる人は、市役所へ行ったり、山の木を切って背中に担いで持ってきたりしていた。それを売って、町内で魚やほかのいろいろな物を買って帰っていった。当時は他の町に行かなくても、清水通りだけで品物が全部そろっていたと聞いている。向かいにはヤクト薬局があり、隣には履物屋があった。また、三軒ほど東側に、多賀さんが電気製品や貴金属を売っていた。 上清水町には、名和藤商店がある。古いお店であり、自分の世代ぐらいの人の代になってからは卸しをしているようだ。田原、農協、学校などに卸していたように思う。 福智院町には木村屋さんという御菓子屋さんがある。今は奈良町大通り側に店を構えているが、昔は清水通り側に店があった。奈良町大通りができ、人通りがなくなってから、家を改築するのと同時に店も奈良町大通り側に移したようだ。小さい御菓子屋だが、注文に応じて正月には餅をついたり、祝い事に備えて年中赤飯を炊いたりして、商売を行っているようだ。 岡崎さんという御菓子屋さんも向かい側にあった。カステラや饅頭を製造して小売りを行っていたが、人通りが少なくなってからは、三笠山の麓の商店街へ売りに行ったり、卸したりしていた。しかし、余裕がなくなってきたのか、昨年に閉業してしまった。 私の店は、もともと荒物屋ではなく、米の卸しをしていた。ただ、義父が早くに他界し、女には米の卸しをするのが難しく、米屋の傍らで荒物、金物も売り始め、切り替えていった。今の時代はお客さんもまばらで、小売業はやっていけなくなった。今は古い物ではなく、若い人向けに考えていかなければならないと思う。 町が寂れるきっかけの一つが、車で移動できるようになり、清水通りの北側に、奈良町大通りができたことである。